第１９回青森県留学生交流ジャンボリー開催

青森県留学生交流推進協議会

青森県留学生交流推進協議会及び（財）青森県国際交流協会の共催による第１９回青森県留学生交流ジャンボリーが、２月９日（土）、２月１０日（日）の一泊二日で、主に五所川原市を中心として開催されました。

この事業は、青森県内高等教育機関に在籍する留学生が、青森の文化や習慣、自然に親しむとともに国際交流関係者や地域との交流を深めることにより、帰国後も青森県との親善の架け橋となってもらうことを目的に開催されているもので、今年は弘前大学が企画・運営を担当し、青森県内の留学生２１名、並びに国際交流関係者３名の計２４名が参加しました。

９日は、青森県武道館にて開催された第２７回全国選抜高校相撲弘前大会を見学した後、五所川原市金木町にて「けの汁定食」で体を温め、地吹雪体験ツアーへ参加しました。前日の暴風雪の影響は殆どなく、留学生はもんぺやかんじきといった昔ながらの津軽の冬の姿に身をつつみ、地吹雪を体験しました。

地吹雪終了後は五所川原市梵珠少年自然の家に宿泊し、プラ板を使ったキーホルダー制作を行いました。各自の出身国の特徴がわかる内容のキーホルダーを作成し、お互いに自分の国について説明し親交を深めました。

翌１０日は五所川原市立佞武多の館にて立佞武多を見学しました。高さ２０mを越す立佞武多を見た留学生からは驚嘆の声があがっていました。この日の立佞武多の館では祭本番でも演奏している「御所河原 囃子 心組」が囃子の生演奏を行っておりましたが留学生も飛び入り参加し、観客から賞賛を浴びました。

例年と違い今回は冬の開催となりましたが、津軽の食、自然、文化を体験した留学生は一様に満足した様子であり、青森県についての理解が深まったことと思われます。

相撲大会を見学する留学生

キーホルダー製作中

ASOSA

トピックス

囃子に参加する留学生

地吹雪体験

青森中央学院大学サテライトキャンパス

「FRIENDLY WINDOW（フレンドリーウィンドウ）」のご紹介

青森中央学院大学

　青森市のメインストリート、新町通りに、青森中央学院大学サテライトキャンパス「FRIENDLY WINDOW（フレンドリーウィンドウ）」はあります。

　フレンドリーウィンドウでは、「留学生母国情報発信フェア」と題し、青森中央学院大学および大学院に在籍する留学生が、それぞれの「ふるさとの味」や、文化、観光情報などを紹介するイベントを開催しています。

　平成 24 年度の留学生母国情報発信フェアは、ベトナム出身の学生による「ベトナムフェア」を皮切りに、5 月 1 日から 6 月 30 日までの期間に亘って開催されました。

　第一弾のベトナムフェアでは、ベトナム出身の新入生と大学院生を中心に、ふるさとの味「ネム（揚げ春巻）」をメインにしたランチが二週間提供され、一般市民の方々で賑わいました。ベトナムの味を初めて体験する方も多く、最初はその食べ方や馴れない味に戸惑う方もいるものの、たくさんの方に好評を得ることができ、フェアは無事終了しました。

　フェア第二弾は、三年生を中心とした中国出身の学生による「中国フェア」が開催され、本場の中華料理が二週間提供されました。エビのピリ辛あんかけ飯「油燜大蝦（ヨウメンターシャ）」と、豚肉とじゃがいもの炒め物「土豆肉絲　（トゥトォロース）」を軸に、日本の中華料理店ではあまりお目にかかる事の無い、「ふるさとの味」が提供されました。

　フェア第三弾は、台湾出身の学生とマレーシア出身の学生による「台湾・マレーシア共催フェア」が行われ、多様な料理がランチとして提供されました。ランチは二種類のメインを選択する方式で、台湾の豚肉そぼろかけご飯「肉燥飯（ロウツォーファン）」と、マレーシア風味たっぷりの「チキ

ンカレー」を主菜に、台湾ではコンビニでもスナックとして買うことのできる程メジャーな、台湾紅茶で煮たゆで玉子「茶湯」や「台湾ビーフン」が添えられたボリュームたっぷりのランチが大きな好評を博しました。フェア最終日には台湾出身の学生による「まるごと台湾観光講座」も開催され、台湾旅行を計画している市民へと、ガイドブックには載らない情報が提供されました。

最終となるフェア第四弾は、タイ出身の学生により開催されました。タイの雰囲気に彩られたキャンパス１Ｆのカフェスペースでは、二週間に亘り三種類の日替わりランチが提供され、多くの市民の方が本場のタイ料理を楽しみに訪れました。日本でもメジャーな「イエローカレー」を始め、タイでは非常によく食べられる「ホワイトカレー」、豚肉とにんにくの炒め物「ムートートグラテェム」の三種類日替わりランチは、日本人向けに辛さを抑えて提供がなされ、幅広い層から好評を得る事が出来ました。

「留学生母国情報発信フェア」期間中は、それに連動した「留学生講師による外国語講座」が開催され、語学を通じて留学生と市民の方が交流する機会を創出する事が出来ました。そのほか、青森市や新町通りでイベントが開催される期間には、イベントにタイアップする形で、学生によるヴァーチャルな店舗経営が行われ、市民交流をしながら経済活動を行う事で、様々な体験を得る機会が出来ました。

中でも、「カレー頂上決戦」と題した飲食提供イベントは、「タイのグリーンカレー」と「マレーシアのチキンカレー」による売上対決をテーマに、企画から実際の調理、広報、接客、会計など、経営に必要な全てのプロセスを留学生と日本人学生の混成ワーキング・グループで担当し、開催されました。参加した学生は計５カ国籍によるグローバルな協働を経て、異文化への理解力を深く養い、更には、経済的に非常に大きな成功を両立させた事で、国境を越えた仲間意識と、自分への自信を深めることができました。

青森中央学院大学サテライトキャンパス「FRIENDLY WINDOW」は、今後も留学生を含む学生の自己研鑽の為のツールとして、また、学生と市民をつなぐ「親愛的な窓口」として、学生のヒューマンソースとしての青森市振興への寄与を目標に、努めて参りたいと思います。

FRIENDLY WINDOW ホームページ

学生の視点から弘前市を海外に発信

-ルポルタージュ弘前に弘前大学留学生が参加-　　弘前大学

弘前大学では、弘前市との連携調査研究委託モデル事業の一環として「留学生による多言語活用調査事業」を平成２３年度より行っている。２年目となる平成２４年度は、初年度に開設した韓国向けサイトの他、新たに台湾向けのサイトも開設している。他にも、中国大陸向けサイトの開設についても現在進めている。

両サイトとも、弘前大学に留学中の学生２名による弘前市内の名所、お店等を韓国や台湾の市民の感覚により近い留学生からの視点で、母国語で解説するとともに、弘前情報をどんなチャンネルを使って伝えればいいか、という分析を行い、より効率的な情報伝達の方法の確立を目指している。どちらのサイトも記事をかなりの頻度で更新しており、それぞれの季節における弘前市の魅力をリアルタイムで伝えている。サイト内には facebook のプラグインが組み込まれており、現在留学中の学生はもとより、過去に弘前大学へ留学した学生も登録しており、本サイトの関心の高さが伺える。

韓国のサイトで紹介役を務めているソ・ドンホさん（韓国・南ソウル大学校より２０１２年４月から留学中）は、「留学前までは弘前市についてほとんど知らなかったが、弘前城など弘前の様々な施設の取材を通して、弘前が歴史のある魅力的な街だということがわかった。また、この事業に参加したことで、通常の留学では恐らく学ぶことができなかった日本の風習等への深い理解を得られた。自分が体験した様々な出来事を、このサイトを通して韓国に広められれば大変嬉しい」と述べている。

「留学生による多言語活用調査事業」にコーディネーターとして関わっている弘前大学国際交流センター　鹿嶋彰准教授は「東アジアが様々な問題で揺れている今のような時期こそ、地方の文物を通じてそこにいる人間の生活を感じてもらい、実感を伴う日本理解をささやかにでも進めることに貢献したい」とし、今後の事業の発展に意欲を燃やしている。

「ルポルタージュ弘前」台湾版（左）と韓国版（右）